３　相模湾沿岸域におけるマイクロプラスチックの実態解明

［総合評価］

・マイクロプラスチックによる海洋汚染は、以前から知られてはいたが、ここ数年で急速に注目を集めてきており、社会的な関心の対象となっていることから、社会的重要性の高い課題といえる。
・県の試験研究機関として、こういう新たな課題に意欲的に取り組むことは、高く評価できる。
・相模湾沿岸を対象とする計画であるが、海浜の面積だけでも膨大なので、調査計画の綿密な立案や、研究協力者(ボランティア)の活用などを検討する必要があると思われる。
・全体としてかなり某大な作業量になると推定されることから、実際に着手してからの研究計画の見直しなど、柔軟な対応が必要と思われる。

・近年注目されるようになってきた新たな課題であり、取り組むことは評価できる。他方、とりあえず現状把握となっており、内陸からの寄与を解明するにはどのように取り組むべきかなど、研究の方向性については必ずしも明確でない。このため、進めながら方向性を調整していく必要があると考える。
・MP に吸着された化学物質の影響に着目するのであれば、プラスチック添加剤には、ポリ臭素化ジフェニルエーテルなど規制を受けている化学物質も存在し、また、比較的高濃度で添加されているので、これらについても考慮する必要があろう。

・本課題は、現在生態系での汚染の影響が懸念されているマイクロプラスチックの実態調査から由来推定までを 3 カ年で実施するものである。予備調査の結果から、相当量の MP が神奈川県の海浜に存在することが確認されている。県民の関心も高いテーマといえる。現時点で確認が可能なペレット、マイクロビーズ、破片の存在量を把握することから、生物への影響等も検討することが計画されている。また、MP に吸着すると予想される有害物質等の検討も実施することから、新規性も高い研究内容となっている。県のセンターとして実施するテーマとしても適していると判断される。
・３カ年の計画も、新規性の高い部分については、実際の試験調査の進行に合わせて，随時見直しも含め進めることが望ましい。

・国際的な背景も踏まえ、相模湾を有する神奈川県ならではの研究テーマ設定であり、評価できる。MP の発生源を把握する観点から、河川におけるプラスチックの廃棄実態を把握することも重要。MP の採取に当たっては、市民の参加を促すことにより、環境教育の機会として活用することもできるのではないか。
・研究期間中に東京オリンピックが開催されることになる。江の島も会場の一つであり、プラごみの排出の増加も予測されることから、オリンピックの環境影響を評価することにも展開できるのではないか。
・今後、外部機関との連携が予定されているため、早い段階で連携体制が組めると良い。

[数値的評価]

評価内容	評価項目	評点				
		5	4	3	2	1
課題設定の妥当性	背景と必要性	３人	１人			
	優先性	３人	１人			
計画の立案と実施方法	研究内容	１人	２人	１人		
	計画の妥当性		３人	１人		

５点満点（標準３点）の評点で５～１点の絶対評価